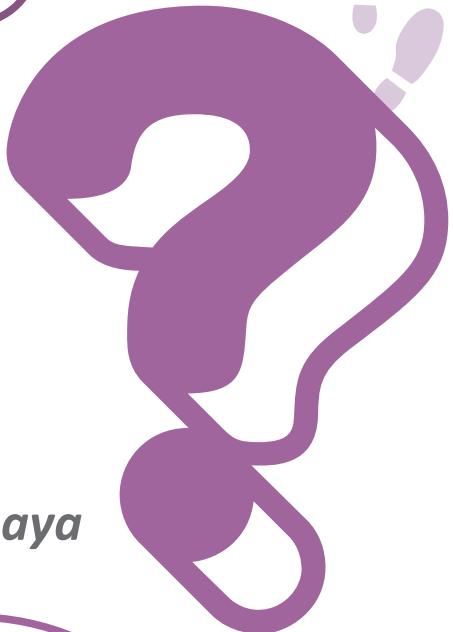


なぞなぞウォーキング

④

安政7年  
3月3日の  
世田谷の  
物語 *Old Setagaya Story*



■歴史上の有名なできごとが起きた時の世田谷は、  
どんな様子だったのだろう?

豪徳寺・世田谷代官屋敷周辺をウォーキングしながら  
なぞなぞに答えると、わかってくるよ!  
なぞの答えの中に隠れているキーワードを  
つなぎ合わせるとミッションが浮き出るよ!

# 安政7年3月3日の世田谷の物語

*Old Setagaya Story*

世田谷城跡 → 代官屋敷



なぞ

1

## 世田谷城の範囲は どのくらいの広さが あったのでしょうか？



①  
城跡公園の  
一部

②  
城跡公園  
とその周辺

③  
城跡公園 +  
豪徳寺の範囲

答えはページの下

世田谷城は、中世世田谷を治めた吉良氏の城ですが、いつ頃築かれたかなど詳しいことは分かっていません。世田谷城跡は大正8年（1919）には東京都旧跡に指定され、現在はその一部が公園となっています。城の明確な範囲は明らかではありませんが、豪徳寺も世

田谷城の一部であったと伝えられています。



みどり豊かな世田谷城跡公園

なぞ1の答えは ③ 城跡公園 + 豪徳寺の範囲

なぞ

2

\*ーーーー  
台地の  
「い」

P24へGO!

# 世田谷城は どうしてここに 作られたのでしょうか？

- ① 台地の先端だから
- ② 世田谷の真ん中だから
- ③ 主の故郷だから

答えはページの下

世田谷城は平地にある丘を利用して築いた“平山城”という種類の城です。三方を烏山川(現・烏山川緑道)に囲まれ、南東側に突き出した舌状台地の上に築かれています。城には土壘を二重につくり、空堀との高低差を利用して守りとしました。

世田谷城の北には、府中への古道・滝坂道が通り、また南には江戸と小田原を結ぶ矢倉沢往還(大山道)があり、世田谷城は交通の要衝でもありました。



なぞ2の答えは ① 台地の先端だから

なぞ

3

## 世田谷城のすぐ南を通る 「しろやま通り」は どんな漢字でしょう？

- ① 白山
- ② 代山
- ③ 城山

答えはページの下

世田谷城跡の周りには、城の名残を残す場所がいくつもあります。天正18年(1590)吉良氏が世田谷城から去ったあとは雑木林となり、江戸時代半ばには、材木の苗を植えるなど植林も行われました。



上空からみた世田谷城跡



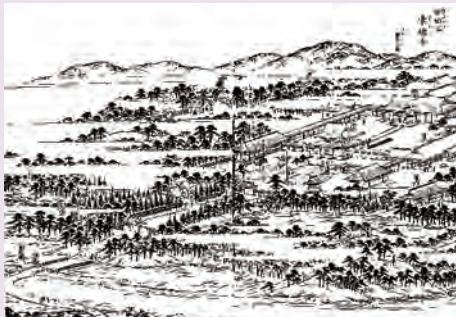
なぞ3の答えは ➤ ③ 城山

## ナゾ多き世田谷城

一般に「お城」というと、大阪城など「天守閣」のある建物を想像するのではないでしょうか。しかし中世(12世紀～16世紀)の城には、台地など地形を利用して居館をつくり、周囲に空堀を掘って土塁をめぐらせたものもありました。

世田谷城は中世吉良氏の城ですが、「いつ城を建築したのか」について記録はありません。城跡の発掘調査の出土品の年代から13世紀～17世紀に存続したと考えられています。過去数回の発掘調査により見つかった出土品は、はじしつどき土師質土器・陶磁器・土製品(土錘など)どすい・石製品(石臼・板碑・砥石など)・金属製品(装飾品、釘など)・錢貨などがあります。

城跡は現在一部公園となっています。石垣は土塁保護のもので、当時の城のものではありません。



『江戸名所図会』  
豪徳寺の右の方に続く地を  
「吉良氏城址」としています



なぞ

4

## 豪徳寺の名前の由来は？

- ① 寺を建てたお坊さんの名前
- ② 寺のあった地名
- ③ 藩主の法名  
(亡くなった後に付けられた名)

答えはページの下

だいけいざん

大谿山豪徳寺は、彦根藩主井伊家の江戸の菩提寺です。菩提寺とは、一家で墓所と定め、葬式や法事を営む寺のことです。ここには江戸で亡くなった井伊家の人々や家臣が葬られました。寛永10年(1633)彦根藩世田谷領が成立すると、世田谷村にあった弘徳庵が井伊家の江戸菩提寺に取り立てられました。二代藩主直孝が万治2年(1659)に没すると、その法名「久昌院殿豪徳天英大居士」にちなみ豪徳寺と改めされました。



井伊家墓所



豪徳寺佛殿



豪徳寺山門



豪徳寺参道の松並木

キーワード  
藩主の  
「ん」「し」  
P24へGO!

なぞ4の答えは ③ 藩主の法名(亡くなった後に付けられた名)

なぞ

5

## 写真のうち 井伊家の墓は？



答えはページの下

豪徳寺の井伊家墓所には、藩主とその家族で86あまり、家臣もあわせ303基の墓石があります。藩主とその夫人(正室)の墓石の高さは約3メートルで、墓の大きさに差をつけることなく造られました。

井伊直弼の墓のそばには、安政7年(1860)3月3日に桜田門外の変じゅんなんで命を落とした藩士を供養する「桜田殉難八士之碑」や、事件の後、その一生を直弼の墓守として過ごした遠城謙道の墓(首座塔)おんじょうけんどう しゅそとうがあります。

ちなみに写真①は「常盤塚」(なぞなぞウォーキング①「大山道」なぞ7参照)。写真②は「野毛大塚古墳」(なぞなぞウォーキング③「等々力渓谷 野毛大塚古墳」なぞ7～10参照)。



首座塔



遠城謙道

休み

なぞ5の答えは▶ ③

なぞ

6

\*一ワ一ふ  
馬の  
「う」

P24へGO!

江戸屋敷で必要とされ、  
世田谷の村人が納めた  
ものがあります。  
次のうち組み合わせは  
どれ？

- ① 労働力としての馬と年貢米
- ② ペットとしての猫と千両箱
- ③ タンパク源として鶏と卵

答えはページの下

世田谷領は彦根藩江戸屋敷で必要なものを調達する場所でした。江戸屋敷に近く、近郊に位置していた世田谷からは様々な物資、労働力も提供されました。「豪徳寺から屋敷まで法事の諸道具を運ぶ人員8人と馬2匹」などと命令が来ると、世田谷代官は運搬のための人馬を確保したり、全体の調整を仕切っていました。



馬をひいて荷物を運ぶ馬子の様子



俵づめ作業をする農民

なぞ6の答えは ➤ ① 労働力としての馬と年貢米

## 彦根藩主井伊家と世田谷

井伊家は、近江国(現・滋賀県)の彦根に城を構えた大名で、領地は最高で30万石あり、徳川幕府の譜代大名筆頭の家格にありました。江戸時代の大名は、参勤交代によって数年ごとに江戸で暮らしますが、正室と子息らは江戸で暮らしていたため、各藩は江戸にも屋敷を持っていました。

寛永10年(1633)二代藩主直孝のとき、彦根藩は江戸屋敷賄料のため関東地方に佐野領(現・栃木県)と世田谷領15ヶ村(のち20ヶ村)を幕府から拝領しました。

インターネットで「賄料」と検索すると「ある事柄にかかる経費、費用」と出てきます。世田谷領の年貢は江戸屋敷の維持のために使われました。

### 彦根藩江戸屋敷の場所

屋敷	場所	現在
上屋敷	外桜田	憲政記念館
中屋敷	赤坂	ホテルニューオータニ
下屋敷	千駄ヶ谷	明治神宮
	早稻田	
蔵屋敷	八丁堀	

※彦根城博物館ホームページから作成

## 世田谷代官の役割

世田谷領15ヶ村(のち20ヶ村)の村々を差配し、村の代表である名主を取りまとめ実務を調整する立場にあったのが世田谷代官でした。江戸後期に土分(徒步役)に取り立てられました。

世田谷の村々は、  
江戸屋敷に最も近い支配地で、  
御屋敷から呼び出しも多く大変…。

大場弥十郎  
大場代官屋敷保存会



なぞ

7

\*一ワード  
街道の  
「か」

P24へGO!

## 世田谷代官屋敷は 大山道沿いにあります。 ここに位置する理由は?

- ① まっすぐ道は  
人をみつけやすいから
- ② 街道沿いに市場ができたから
- ③ 江戸から殿様が  
通いやすいから

答えはページの下

大場家の北側を通る大山道は、矢倉沢往還とも呼ばれ戦国時代に小田原と江戸を結びました。小田原北条氏は天正6年(1578)、世田谷新宿に楽市を開いて吉良氏の城下を活性化しようとしました。吉良氏家臣の大場家は、その管理などを任せ元宿から新宿へ居を移したといいます。この新宿の場所が現在の上町にあたり、約450年も前から活気ある場所でした。



『世田谷領二十ヶ村  
絵図』部分  
郷土資料館蔵

なぞ7の答えは ② 街道沿いに市場ができたから

なぞ

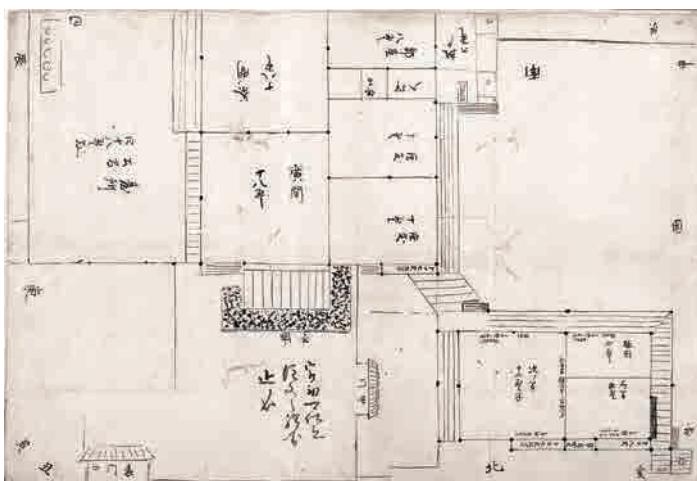
8

## 式台玄関(公務のための玄関) の役割で間違いは 次のうちのどれでしょう?

- ① 役人を迎えて  
書院に案内するため
- ② 街道側にある表門から  
見える位置につくった
- ③ 家の人が日常に使用した

答えはページの下

式台は上級の武士などを迎えるため、玄関に張り出してつくられました。客人は、主屋の広間と座敷を通り北西に接続した書院座敷(下図の右側)へと案内されたようです。江戸時代に式台玄関をつくることを許されたのは、村役人などの役職に就いていた家でした。



\*ワード  
家の  
「い」  
→  
P24へGO!

『屋敷仕立註文  
の絵図』  
大場代官屋敷  
保存会

なぞ8の答えは ③ 家の人が日常に使用した

なぞ

9

休み

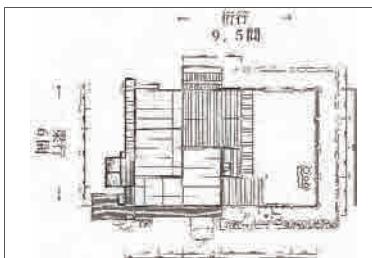
# 世田谷代官の家は 次のうちどれでしょう？



① 図1



② 図2



③ 図3

答えはページの下

『甦った古民家 第1、4輯』  
『重要文化財大場家  
住宅調査報告書』に加筆

代官屋敷の規模は梁行(建物の短い側)11.0メートル(6間)、<sup>はりゆき</sup> 衍行(建物の長い側)<sup>けたゆき</sup> 17.3メートル(9.5間)あり区内でも大きな古い民家です。

ちなみに図1は次大夫堀公園民家園の「旧加藤家住宅」、図2は岡本公園民家園の「旧長崎家住宅」です。広い土間があって、農家としての特徴があらわれた住宅です。

なぞ9の答えは ➤ ③ 図3

## 代官屋敷の屋敷構え

建物の配置だけでなく、庭や堀などを含めたそれらの関係性や様相のことを屋敷構えといいます。江戸時代後期の代官屋敷には、大場家文書の中の『家例年中行事』(文化6年・1809)などから、少なくとも建物は、①表門、④中門、②主屋、⑥書院座敷、⑨土蔵があり、他にも隠居屋、米蔵、稻荷、廐、周りには表庭、⑤内庭、⑧井戸などが配されていたことがわかります(右図参照)。

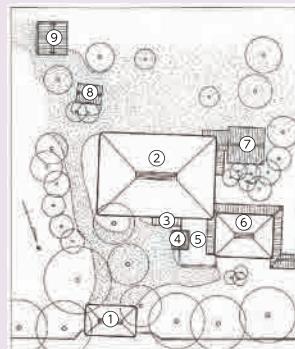
敷地の北側は大山道に面し、元文2年(1737)に建てられた主屋も、その後宝暦3年(1753)頃に建てられた表門も北を向いた構えとなっています。表門は、片番所付きの茅葺寄棟造りで、主屋と同じく四方をせがい造り※1としていることから街道から見て格式高い家であると認識できました。表門を入り右手に進むと左に③式台玄関

が見えてきます。主屋の北西には接客専用の書院座敷が接続し(書院座敷の一部は、現在、埼玉県入間郡にある「新しき村」に移築)、書院座敷と式台玄関の間には中門が備えられていました。

屋敷は代官一家の住まいでもありました。日常の生活では大戸※2が使われ、北と南のどちらからも土間に出入りができるようになっています。現在は庭園となっていて詳しくは明らかになっていませんが、かつて敷地の南側には庭や畠が広がっていたかもしれません。

※1 せがい造り 梁と桁を建物の外へはね出したつくりで、豪華に見えることから近世は規制の対象になりました。

※2 大戸 土間への出入り口として設けられた1間幅ほどある大きな板戸のことを「大戸」と呼びます。



屋敷配置図(復原)  
『世田谷代官大場家の歴史』

なぞ

10

\*一ワード  
桜田門の  
「だ」

P24へGO!

## 安政7年3月3日に 江戸城門前で 起こった事件の名前は？

- ① 虎ノ門の変
- ② 桜田門外の変
- ③ 大手門事件

答えはページの下

じょうし  
安政7年(1860)3月3日、上巳(ひなまつり)の祝儀のため、江戸城へ向かっていた直弼の一行が、  
桜田門外で水戸浪士らに襲撃されました。  
五ツ半時(午前9時)、直弼の一行に水戸浪士の1人が近づき、隠し持った短銃を打ち込むと一斉に  
切り込みました。直弼の護衛をしていた者たちは、  
つかぶくろ  
雨合羽と柄袋のために、自由に立ち振る舞うことができませんでした。わずかの間の出来事だった  
そうです。



「大老彦根侯ヲ襲撃之図」大蘇芳年 筆 明治8年(1875)頃 郷土資料館蔵

なぞ10の答えは → ② 桜田門外の変

なぞ

11

藩主直弼が暗殺された事件は、その日の九ツ時(正午)には世田谷代官の大場家に知らされました。どうして時間が分かるのかな?

- ① 地図アプリで計測したら世田谷まで3時間かかったから
- ② 彦根藩の記録
- ③ 美佐の日記に書かれているから

答えはページの下

※一覧一覧  
日記の  
「に」「き」  
P24へGO!



大場美佐  
大場代官屋敷保存会

美佐は、彦根藩世田谷領の代官第12代当主大場与一景福の妻です。安政4年(1857)、25歳の時に嫁ぎ、3年後の安政7年(1860)から日記を書き残しています。

3月3日の日記には「例年通り上巳の節句を祝っていました、九ツ頃(正午)頃に太子堂村の弁次郎から使をもって桜田門前で一大事が起こったことを知らせに来ました」とあります。(巻末参照)



『大場美佐の日記』はくずし字が  
翻刻され刊行されています(1~3巻)  
世田谷区教育委員会発行

なぞ11の答えは ③ 美佐の日記に書かれているから

## 井伊直弼と幕末の動乱

井伊直弼は、11代彦根藩主直中の14男として文化12年(1815)に生まれました。12代彦根藩主直亮の跡継ぎであった兄直元の死亡により、嘉永3年(1850)藩主となりました。

直弼が藩主となって3年後の嘉永6年(1853)にペリーが浦賀に来航し、開国を求めました。幕府は大名たちに意見を聞きましたが、意見はまとまらないまま、翌年再びペリーが来航すると、幕府は日米和親条約を結びました。安政5年(1858)、幕府は日米修好通商条約を結ぶため天皇の許しを求めますが、尊王攘夷※の勢いも活発となり失敗します。幕府の大老に就任し、政治の中心に立った直弼は、天皇からの許しを待たずに日米修好通商条約を締結し、さらに将軍の跡継ぎ問題では御三家水戸藩の推薦する慶喜を推さず、紀伊徳川の慶福(のちの家茂)と決めました。

幕府の条約締結を責める天皇の命令書(戊午の密勅)が水戸藩に出されると、幕府は尊王攘夷派の弾圧をはじめ、安政6年(1859)まで

に多くの人々を処罰しました(安政の大獄)。特に水戸藩に対して厳しくを行い、天皇の命令書を返すように迫ったため、強い反発をうけました。翌安政7年(1860)3月3日、直弼は桜田門外の変によって暗殺されました。

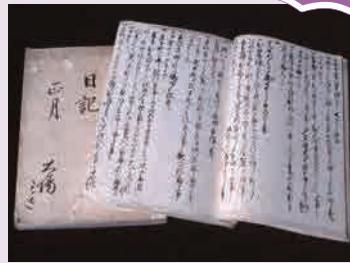
※天皇を尊ぶ「尊王」と、外国勢力を打ち払う「攘夷」が結びついた考え方。

ペリー肖像 郷土資料館蔵



## 『大場美佐の日記』

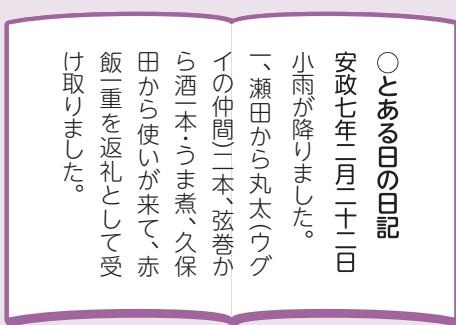
『大場美佐の日記』は、幕末から明治期にかけて起こった社会の出来事や、それにかかわる世田谷の人々の暮らしについてうかがうことができる貴重な資料です。



大場美佐の日記  
大場代官屋敷保存会

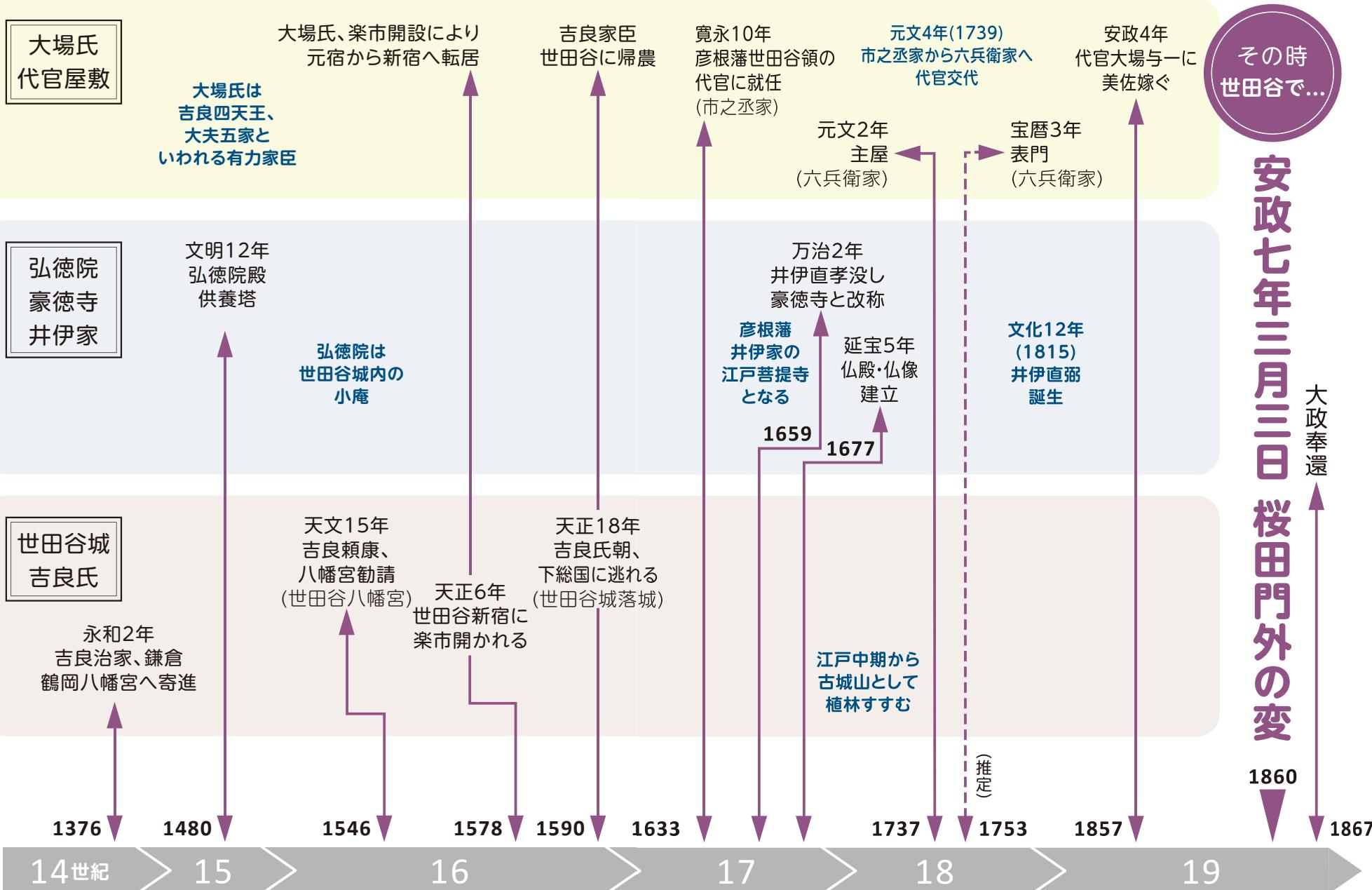
美佐は、代官の行動や人々との付き合い、贈り物の品々、また日々の生活のなかの年中行事について詳細に書き記しました。大場代官家の家政を任せられた美佐にとって、必要に迫られてのことだったのでしょう。一日の日記の始まりには、天気の移り変わりが書かれており、これも美佐の関心事だったようです。

美佐はその好奇心で様々な場所に自ら足を運び、目にしたことを日記に記録しています。その一つに、文久元年(1861)に孝明天皇の妹・和宮<sup>かずのみや</sup>が江戸に向かうときに、世田谷から約500人が板橋宿に向かうという出来事がありました。美佐は一行の出発の様子を見物し、その出で立ちを詳しく書き残しています。この他にも明治天皇が京都から東京に来た際や汽車の見物のために、美佐は度々出かけていました。



明治37年(1904)、美佐は実際に45年もの長い間書き続けた日記の筆をおきました。『大場美佐の日記』は、目まぐるしく変わる時代を生きた世田谷の人々の暮らしを今に伝えます。

## 関連年表



# 安政7年3月3日の世田谷の物語

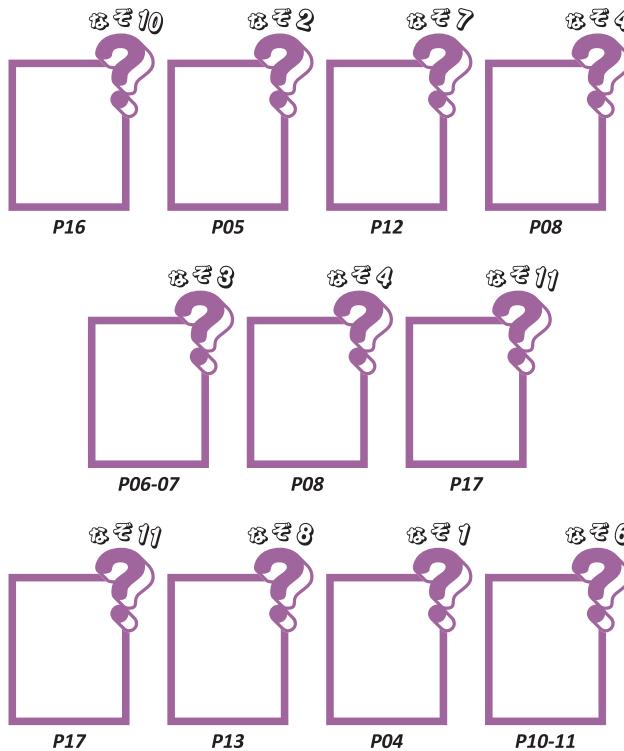
## － 桜田門外の変 その日の代官屋敷 －

美佐	安政7年3月3日、桃の節句の日の朝、3月だというのに朝から名残り雪の降る寒い朝のこと…いつものように桃の節句のお祝いをして、朝ごはんに小豆粉をかけた草餅も食べ終わり、食事の片付けも一段落した正午頃のことでした。
弁次郎	「御免、御免、御代官様はお留守ですか?」
美佐	「どなたですか?」
弁次郎	「急ぎ御代官様にお会いしたい。太子堂村の弁次郎と申します」
代官	「雪の日だというのに、急用かい?」
弁次郎	「御代官与一様、早く早く、この手紙に目を通してください」
代官	「なに、どれどれ…」
吉右衛門	「手紙を飛脚に持たせ急ぎお知らせします。御領主井伊直弼様とご家来が桜田門前にて襲われる事件があり、双方で即死した人もあったということです」
代官	「なんだと…殿様が襲われたとは…」
美佐	「弁次郎さん、あなた、少し休んで温まっていきなさいよ」
弁次郎	「ではそうさせてもらいます。なにしろ雪道を大至急、大至急、と急いで来たもので…何か大変なことがあったようですね」
美佐	「今日は村の名主たちが桃の節句のお祝いに上屋敷へ出かけていましたね。彼らの帰りを待ってみてはどうですか?」
代官	「そうだな、ひとまず待つとしよう。しかしいつでも出かけられるように準備だけはしておいてくれ」
美佐	「わかりました。お節句のお夕飯はいつもならハマグリと煮物、ごはんと汁物ですが、用意だけはしておきます」
名主たち	「御免、御免」
代官	「おおー、みんな待っていたよ。いったい何があったんだ?」
名主たち	「御代官様、直弼様がお城に向かう途中で襲われて…」
代官	「殿様はどうした?」
名主たち	「ご無事をお祈りしたいけれど、命は危ないと思います」
代官	「近頃は黒船騒ぎに開国、修好通商条約をめぐり朝廷も巻き込んで大混乱だ。そのうえ将軍様の跡継ぎ問題で幕府は揺れに揺れた。大老として政局の中心にいる殿様を批判するものも多いと聞いているが、殿様

- は大老というお立場で将軍様を守ろうとしているのだ。しかし水戸のご老公様はじめ、水戸藩の恨みを買っているという話もある」
- 「旦那様、世田谷村名主の宗八と用賀村の麻次郎が参りましたよ」
- 「一緒に上屋敷へ出かけよう。これまでの話は歩きながら話すとして、人手も6~7人だが集まつた。帰るのは夜明けになるかもしれない…」
- 3日後—
- 「すっかり雪は解けたけれど、おお寒い、また降るかもしれない」
- 「美佐様、殿様が事件に巻き込まれたと聞きました。この世田谷村にも何か事件が起きそうで、なんだか不安です」
- 「事件から3日も経つのに、村中落ち着かない様子ですね」
- 「ああ、上屋敷では今すぐ水戸藩を襲撃するという声が多く、血気さかんな藩士たちを御家老の岡本黄石様が抑えているそうだ」
- それから約1か月が過ぎた。亡くなられた直弼様は、表向きは病を得て床に臥せっているところへ、将軍様から朝鮮人参などお見舞いの品も届けられたが、甲斐もなく亡くなったと伝えられた。直弼公の子息、直憲様が家督を相続され、14代藩主となられた。4月9日、桜田上屋敷から豪徳寺へ、亡くなられた直弼様のご出棺の日を迎えた。
- 「殿様の棺は午前6時頃に上屋敷を出て、世田谷に入るのは恐らく午後12時頃だろう。おまえはお供される藩士の方々の昼食の支度があるのだろう?」
- 「はい、世田谷村上宿の武右衛門のところで、お武家様40人前と、そのほか15人前の食事を用意します。人手が足りず家じゅうみんなで行かねばなりません。」
- 「それはご苦労だね。しかし殿様の大切なご葬儀だから、しっかりと務めておくれ。この代官屋敷にも数名お泊りがあるから、その支度も準備しておくれ」
- 「はい、心得ました。旦那様は夜分のお見回りもあるのでしょうか?」
- 「大事件が起った後だ、菩提寺の豪徳寺の安全も見届けないと」
- 「明日のお葬式にはお悔やみに参ります。供養してお別れしたいと思います」
- あの日、3月3日の雪の日、命を落とした殿様をはじめ8人の藩士の方々のご家族や周りの方々はその後、どのようにお過ごしならう。あの事件は重大な出来事として末永くのちの世まで語り継がれるはず。でも、私たちのような庶民は、淡々と日常をおくるほかないのだ。私は日々起こる出来事をただ日記に残していくだけ。自分のために、家族のために。

※この物語は、『大場美佐の日記』等、歴史資料をもとにしたフィクションです。

なぞの答えに隠れていた  
キーワードをつなぎあわせよう。  
ミッショングが浮き出てくるよ！



## なぞなぞ④ 安政7年3月3日の世田谷の物語 *Old Setagaya Story*

発行 令和4年9月

世田谷区教育委員会事務局 生涯学習・地域学校連携課文化財係  
TEL 03-3429-4264 FAX 03-3429-4267

編集協力 場所づくり研究所プレイス